



館長だより

山形県産業科学館

令和 7 年 1 0 月 9 日 (木)

発行 館長 加 藤 智 一

アオバアリガタハネカクシ

キリンの体



ずいぶんとご無沙汰でしたが、満を持して昆虫ネタの再開です。本日はご紹介するのは、「飛ぶ硫酸」（実際は硫酸では

ありませんが）とも呼ばれ、恐れられている「アオバアリガタハネカクシ」です。これが今、中国は河南省で大量発生し、問題になっているとか。「アオバアリガタハネカクシ」は、体液に強い毒を持つ小型の甲虫で、触れると皮膚炎を引き起こすことがあるため「やけど虫」とも呼ばれています。体長は約 6～7mm で、頭部と腹端が黒く、胸部と腹部は橙赤色、翅は青緑色で警告色のような配色をしています。日本全国（北海道～沖縄）だけでなく、世界中に広く分布（アメリカ大陸を除く）しておりまして、水田、畑、湿地、河原などの湿った環境が大好きで、夜になると灯火に引き寄せられ、室内に侵入することもあるのです。ですから、これは中国の話だからと安心してはられません。特に、夏場の夜は要注意ですが、今年は異常に暑い日が続いていますので、秋だからと安心するにはまだ早いかもしれません。

さて、ここからはいよいよ「アオバアリガタハネカクシ」の毒性についてお話ししましょう。毒の成分は、ペデリン (Pederin) という強い毒です。皮膚に体液が付着すると数時間後に赤く腫れ、水ぶくれや線状皮膚炎（ミミズ腫れ）を引き起こします。また、潰すと体液が飛び散るため、見つけたら触れずにそっと払いのけるのがベストな方法です。目に入ると失明の危険もありますので、ご注意ください。しかし、「アオバアリガタハネカクシ」は、雑食性ですが、ウンカやヨコバイなどの農業害虫を捕食するため、農業では益虫とされています。このあたりが憎らしいところで、生き物すべてが、他者と何らかの共

生関係を築いて、生存競争を勝ち抜いてきた事を実感させられているしだいです。

「人類なら知っておきたい 地球の雑学」よりこちらも久々の動物ネタです。楽しみにしていた子どもたち。今日はキリンの話だよ。

長い首のキリンは動物園でも人気者ですが、もしキリンが人間のような健康診断を受けたら、たちまち「再検査の必要あり」とされるかもしれません。なぜならキリンは、最高血圧が 252mmHg、最低血圧が 197mmHg という超高血圧だからです。これは、キリンの頭が地上 5 メートルの高さにあり、地上 3 メートルのところにある心臓から、脳まで血液を押し上げる必要性があるからです。しかし、長い首をさらに伸ばして高所にある木の葉を食べているのを見ると、脳貧血になるのではと心配だし、頭を地面すれすれまで下げて水を飲んでいるのを見ると、今度は脳出血を起こすのではとハラハラします。それなのになぜキリンは平気な様子をしていられるのでしょうか。

キリンの体の循環器には、あのスタイルならではの特殊なしくみがいくつかあります。まず、頸動脈がいくつかに分かれしており、頸動脈の中の血圧を下げるようになっています。静脈のほうも、首のところどころに逆流防止の弁があって、血液が脳に逆流するのを防いでいるのです。さらに、脳底部にある、ワンダーネットと呼ばれる網目状に走った毛細血管のかたまりでは、キリンが急に頭を下げたときに、急流を流れ下ってきたような状態になっている血流をいったんせき止めてプールし、脳内に一定の血圧で流れるよう調整しているのです。もしワンダーネットがなかったら、脳は血流の激しさでひとたまりもないでしょう。下半身にも、秘密があって、足の小動脈の血管壁が分厚く、そのため動脈の血圧は高いのですが、静脈のほうは血圧が下がるので、足が鬱血してむくむことはありません。また、足の先は骨に皮がぴったりくっついて筋肉が少なく、まるで加圧ストッキングを履いているような状態になっています。これもむくみ防止に一役買っているのです。

